



京都部会(第17回)

日 時: 2013年1月18日(金) 19:00~21:00

場 所: 同志社大学良心館

参加者: 篠原総一(同志社大学)、上畑直久(御池中学校)、川上敏和(同志社大)、下村和平(山城高校)、野間敏克(同志社大学)、人見哲也(数研出版)、絹川温子(同志社大学)、奥村光太郎(伏見中学校) 以上8名

【内容要旨】

- (1) まず初めに、経済教育ネットワークの篠原代表および野間理事から、最近のネットワークの活動報告があった。なかでも重要なのは、2013年夏にも開催される「先生のための経済教室」(東京証券取引所との共催)であり、名古屋、大阪、福岡、東京各所での内容や担当講師が、東京部会を中心に固められている。また2月には、埼玉県川口市、北海道稚内市でワークショップが予定されている。その他、3月23日に同志社大学で開かれる年次大会(法教育と経済教育の対話)については、中川氏(日本大学)を中心に、シンポジウムの進行打ち合わせが進んでいる。
- (2) 次に篠原代表から、日経新聞記事をもとに「円安は日本経済にとって良いことだ」という一般的な認識に疑問がなげかけられた。最大の理由は、近年貿易収支が赤字に転じて、円安になると輸入品価格が上昇しコスト高になり日本経済にマイナスの影響がおよぶからである。とくに、原発の停止で石油や天然ガスの輸入が増加したために、為替レート変化の影響を受けやすくなっている。逆に輸出の方は、半製品の増加など輸出構成が変化したために、円高でも輸出が減少しにくい面が出てきた。その他に、貿易通貨建ての変化とも関係しており、中高の生徒に説明するには難しいところもあるが、「円安は良い」「円高は悪い」とは言えなくなっているとの問題提起であった。
- (3) 1月15日東京部会で高橋氏(桜修館中高)が報告した「高層マンション建設の問題を方と経済で考える」、10月13日大阪部会で河原氏(関西大学中等部)が報告した「ネタ・ゲームを通じて見方考え方を培う経済の授業」の資料が野間から配布され、これらを題材に意見交換を行った。
- (4) 川上敏和氏(同志社大学)から、政府の役割について経済学的な整理が紹介され、独占、外部経済性などについて解説された。その際、各教科書が「なぜ公共サービスは政府が提供するのか」という点をどのように記述しているかについて抜粋・比較がなされ、興味深い違いがいくつかみられた。

(文責 野間敏克)

次回開催予定: 2013年3月8日(金) 19:00~21:00